

きらめき

主体性を育む「コーナー保育」
～異年齢の交わりの中で～

世界に目を向け、心を寄せて
「こどもバザー」

～光の子として歩みなさい～

(聖書 エフェソの信徒への手紙5章8節)

NO.10 学校法人岩手キリスト教学園機関誌
Dec.2023

IWATE CHRISTIAN
EDUCATIONAL INSTITUTION

アブラハムの教育

岩手キリスト教学園
認定こども園ひかりの子
アガペ保育園
日本キリスト教団日詰教会

副理事長
園長
園長
牧師



インヘ
張 仁恵
チャン

11月の下旬からクリスマスを待ち望むアドベントが始まりました。園内にはクリスマスの讃美歌を歌う子どもたちの歌声が聞こえ、神の愛そのものである救い主イエス・キリストのお生まれをお祝いする劇「ページェント」の遊びも始まりました。色々な役にチャレンジする子どもたちのたくましい姿を通して、私たちが行うキリスト教保育・教育について深く考えさせられる時にもなっています。

「わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように」(創世記12章2節)と聖書にあるように、アブラハムは神さまからたくさんの祝福をいただいた人物です。神さまはアブラハムを試され「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい」(創世記22章2節)と命じます。この聖書の箇所を見ると、アブラハムが息子イサクを「愛」したことが分かります。つまり、父母は何よりも先ず、子どもを愛するのが一番大切であると教えられるのです。

岩手県内でもコロナ禍の後、子どもへの虐待件数が右肩上がりが増えていて現状が報告されていますが、この世のすべての子どもたちは、大人の愛を受け、その愛のもと成長し、愛されるべき存在であることを改めて皆さまと共有しなければなりません。私たちの教育の根幹はアブラハムのように子どもを愛することです。

では、アブラハムが息子を愛したような真の愛、教育とは何でしょうか。聖書の創世記22章2節と6節を見ますとアブラハムは神さまから示される道に従順し、イサクを「連れて」行きますし、「二人は一緒に歩いて」行くのです。この御言葉を通して気づくことができるのは、親子が一緒に、共に示された道を行くことです。愛する子どもと「一緒に、共に」する、過ごすことです。

ゲリー・チャップマン著の「愛を伝える5つの方法」には、愛の言語として5つが挙げられています。それぞれの意味を簡単に紹介しますと①肯定的な言葉②愛情、褒める、感謝などを言葉で表現する③サービス行為④言葉よりも行動で愛情を示したり受け止めたりする⑤贈り物⑥愛や好意の象徴として贈り物を

する④クオリティ・タイム⑤中断や邪魔の入らない上質な時間(短い時間でも)を共に過ごすことで愛情を示す⑥スキンシップ⑦手を握る、ハグをするなどを通して愛情を表現する⑧です。皆さまはどのような言語を通して愛を感じておられるでしょうか。愛を感じるそれぞれの愛の言語は違うかもしれませんが、アブラハムを通して教えられる愛と教育の一つは、子どもと共に、すなわち、忙しさの中でも子どもと一緒に、共に過ごすことです。短くても上質な時間を通して愛をいっばい表現していただきたいと思っています。

聖書には「アブラハムは焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った」(創世記22章6節)とも書かれています。アブラハムは、焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って愛する息子のイサクに「背負わせ」ます。アブラハムが献げ物に必要なものをすべて背負うのではなく、愛する息子イサクにも「背負わせた」のは、意味深い教育の一つであると思いました。

現代社会において、子どもに対する度を過ぎた保護は自尊心と問題解決能力を低下させる原因にもなると言われています。ですから、子どもの言動を何もかも監視し、手を貸し、手取り足取り教えるのではなく、子どもたちがもつ力を信

じて、失敗や葛藤、子ども同士のトラブルを育ちのチャンスとして捉えて丁寧に関わるのが大切だと考えます。これこそが、子ども自身が自分の問題を自ら解決するチャンスを与えることになるのです。愛と信頼関係のもと、子どもの力を信じて待つ役割を担うのが、キリスト教保育・教育であり、私たちが行うべき保育・教育であると気づかされました。

「あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった」(創世記22章12節)と聖書に書かれている通り、アブラハムは「神を畏れる」ことが大切であると息子に見せ、教えました。

「神を畏れる」とは、目には見えませんが私たちの身の周りにあるとても大切なもの、優しさ、思いやり、感謝する心、希望を持つこと、信じることなどを大切にすることです。毎日の生活の中で神さまに祈り、聖書のお話を通して共感し、心をたくさん動かすことの大切さを経験することがキリスト教保育・教育です。

是非、これからも子どもを真ん中にし、保護者と教職員、地域が良きパートナーとなり、アブラハムのような教育を通して子どもの育ちを支えていきたいと思えます。神の愛、クリスマスの喜びの知らせが世界の隅々まで届きますように。

主体性を育む「コーナー保育」 ～異年齢の交わりの中で～

認定こども園ひかりの子 //



認定こども園ひかりの子では、毎日の活動に子どもたちの主体性を大切にした「コーナー保育」を取り入れていきます。数種類あるコーナーの中から自由に遊びを選択できるよう環境を整え、異年齢の子どもたちが一緒に遊びます。子どもたちがどんな発想が生まれ、育ちにつながっているのか。見守る保育者は、どんな工夫や配慮をしながら遊びに没頭できる環境を作っているのか、のぞいてみました。

「流しそうめんみたいだね」。自由
に土を掘ったり、水を流したりで
きる園庭の一角で子どもたちが長い
プラスチック製の樋を2、3本つな
いで泥水を流そうとしています。う
まく流すためには上から順番に少し
傾斜をつけ、樋同士の継ぎ目で上か
ら流れてくる水をうまく受けられる
よう下側に配置しなければならませ
んが、これがなかなか難しい。どう
しても継ぎ目で水が漏れて、次の樋
に流れてくれないのです。樋の継ぎ
目をくつつけ直したり、離したり。
角度を変えてみたり。大人が手をか
けてやれば、樋同士を重ねてうまく

流す方法をすぐ教えられますが、こ
こは展開をじっと見守ります。流す
泥水も小さなバケツではすぐ終わっ
てしまうと気づいたのか、大きなバ
ケツを「よいしょ、よいしょ」と引
きずるように運んできました。
一本の樋は1歳以上あるので2、
3本つなぐと、そこを横切りたい別
の子どもたちには障害になります。
大きな子たちは、事も無げにまたい
でいきますが、その先にある遊具を
取りに行きたいヨチヨチ歩きの小さ
な子は立ち止まってしまいます。す
ると、泥水流しに奮闘していた大き
な子たちが樋をひょいと持ち上げ

「行っているよ」とそこを通してあ
げました。

遊びの時間内に水の通り道は完成
しなかったかもしれませんが、でも、
子どもたちがやりたいと思えば、次
の日も、また次の日も挑戦できるの
です。そんな繰り返しの中で樋をう
まくつけて最後まで流す方法を自分
で発見するでしょう。そこには、大
人に正解を指導されたのとは違う達
成感と喜びがあるはず。異年齢
の友達との自然な関わりの中で、自
分より小さい友達を思いやる気持ち
も育まれていました。



特集 主体性を育む 「コーナー保育」 ～異年齢の交わりの中で～ 認定こども園ひかりの子



園庭で思う存分、泥んこまご



遊びの様子は掲示し
子どもと保護者に伝えます



ビニールひもを三つ編みに



「ラーメン屋さん」になりきって



「ケーキ型ロボット」製作中



とっても優しいお兄さん・お姉さん先生



自然物を使って試して遊ぶ

五つの遊びコーナー

ひかりの子では毎日、朝の保育を中心に「コーナー保育」を取り入れています。園庭とホール、複数の保育室に「しぜんあそび」「ごっこあそび」「ものづくり」「からだあそび」「つみき」の五つのコーナーを設け、登園した子どもたちは自分で好きなコーナーを選んで遊びます。草花を使った色水づくり、カラフルなセロハンを使った光と影のアート、郵便屋さんごっこ、長縄跳び、園庭での一本柱渡り、泥遊びなど遊びの種類は多彩。ものづくりコーナーで作ったラーメンで「屋台ごっこ」が始まったり、覚えてのひらがなで書いたお手紙を郵便屋さんが配達したり、遊びはコーナーの枠を超えどんどん広がっていきます。

お兄さん お姉さん先生

年長組の園児が、3歳未満児クラスや隣のアガベ保育園に向いて小さな子のお世話をする「お兄さん・お姉さん先生」もコーナー

保育の一つです。年長児自ら行きたいクラス、行きたい日を選択。先生になりきって小さな子たちとふれあいます。核家族が増えていく中、異年齢の交わりをより豊かにしたいと始めました。

11月、1歳児のおやつ時間に、エプロン姿の「お兄さん・お姉さん先生」二人がやってきました。テーブルの前に座った1歳児に、エプロンをかけてあげたり、コップに牛乳をついであげたり。小さな子たちのおやつの進み具合を見ながら、優しく手伝います。おやつの後は一緒にダンス。お兄さん・お姉さん先生がお手本を示して踊ると小さな子たちも歓声を上げて、互いに生き生きとした表情を見せていました。



はい！お手紙です

特集

主体性を育む 「コーナー保育」

異年齢の交わりの中で

ひかりの子の「コーナー保育」

のねらいは「園全体のコーナー保育の中で異年齢の子どもたちが自ら遊びを選択し交流し互いの個性や違いを尊重し共に育ち合う」。

各コーナーには、2〜3人の担当保育者がいて子どもたちの安全を見守りながら、遊びの広がりをサポートします。

「様々な素材に触れ、色・形・手触りを楽しむ」（ものづくりコーナー）「集団でテーマを理解し製作する」（つみきコーナー）など、発達段階に応じて伸ばしたい力を示したコーナーごとの「年間カリキュラム」があり、保育者

はこれを指針に日々、遊びのための環境を整え、振り返りをしています。

各コーナーの担当保育者は2カ月ごとに交代。子どもの様子を引き継ぎながら遊びの環境に工夫を加えていきます。学年ごとの課題活動で子どもたちが夢中になった「遊び」がコーナー保育に取り入れられ、異年齢の子どもたちが挑戦するようになったり、コーナー保育で関心の高かった「遊び」が学年の課題活動に発展的に取り入れられたりすることも。自由に動く子どもたち一人ひとりの様子を職員間でどのように共有するか、さまざまな種類の遊びに偏りなく挑戦する意欲をどう引き出すか、遊びの中での安全をどう確保していくか等々、試行錯誤を重ねています。

「ひかりの子ではコーナー保育に取り組む前から、子どもの遊びを大切に考えてきました。自由であつても自分勝手とは違う。『主体性』とは何か、永遠の課題で

す」と小田中悦子保育教諭（シャローム担当課長 ※3歳以上児担当）。「ルールがあり、そこに至るまでの過程があり、年齢的な成長があつてこそその自主性、主体性。保育者が子どもの要求に応えるだけでなく、発信する側になり、気づかせる側になることも必要です。コーナー保育と日常の学年ごとの課題活動がバランスよくできていくと子どもたちは、もっともっと伸びるのではないでしようか」と話しました。



園庭での「一本渡り」



ペットボトルに水と葉っぱを入れてシエイク

自ら遊びを選択～個性や違いを尊重～

認定こども園ひかりの子の保育教諭に集まっていたいただき、「コーナー保育」について語っていただきました。（敬称略）

シャローム課長（以上児課長）

小田中 悦子

保育教諭（5歳児担任） 野里 鈴

保育教諭（4歳児担任） 坂本 明菜

保育教諭（4歳児担任） 佐藤 栞



「コーナー保育」に取り組んだ感想は

野里 最初は外で遊んでいても途中から園舎の中に入って製作を始めても良い。自分の気持ちで遊びを選び自由に動けるところが良いと思います。ハサミなどの道具の使い方や危険なことも四月にしっかりと確認して遊び始めるので、年齢ではなく、その子の発達段階によって自由に遊べます。

佐藤 ものづくりコーナーで作ったものをこのコーナーに持って行ったり、最近では五つのコーナーがうまく刺激しあっていますね。好きな時に好きなところへ行ける自由さはありながら、コーナーがあることで秩序もある。「これをした」という子どもの気持ちを受け止めてくれる先生もいて子どもは遊びやすいと思います。

坂本 異年齢の交わりがすごく自然に行われていて年長さんにあこがれを持っていたり、他の子がしている遊びを見てそれが刺激になったり、どんどん新しい遊びが展開されていきます。

保育者は担当しているコーナーに来る子の姿しかその時間は見られないのですが「ここでこの子がこんな

ことをしていたよ」などと保育者間で情報共有するようにしています。クラスを超えて見えない子どもの姿を共有できることは子どもたちにとっても、保育者にとっても良いことだと感じます。

小田中 ひかりの子でも「一斉保育」をしないわけではありません。その活動の前に、安心できる場所であたり遊び自ら進んで誰かと関わったり、楽しい経験をしたりする時間を大切にしています。初めから今日はこれで遊びます、時間になったら終わります、と指示されて遊ぶのとは全く子どもの意欲が異なります。保育者側も毎日、クラス以外の年齢差のある子どもと関わり、遊びの環境を考え、子どもとの距離も縮めていかなければいけません。鍛えられますし、保育者の育ちにもつながっていると実感しますね。

どんな場面で子どもの成長を感じますか？

坂本 あこがれはあるのに、どうしても「一本渡り」ができない年中組のお友達がいました。途中まで進むけど怖くて何回も戻って大泣き。

「戻ってもいいんだよ」と声をかけても首を振って動かない。それでも何日もかけてやっと一人で渡りきり高いところから降りられるように

なりました。できるようになった喜び、あきらめないで頑張った気持ち、すごく怖かった気持ち、いろいろな気持ちを経験したので、一本渡りができなくて困ったり、泣いていたりするお友達がいたら、すぐとんできて「大丈夫だよ」「ここ押さえているから」などと応援してくれるんです。自分で経験したことだから相手にも伝えられる。運動面だけでなく心の成長をすごく感じました。

佐藤 一本渡りは、一番端まで行ってみて「怖い」と思っても、後ろに別の友達が何人も並んでいて途中でやめにくい。でも、みんなそれを察すると少しずつお尻をずらして戻ってあげる。優しいなと思います。

（次ページへ）



黄色い落ち葉見つけたよ！

(前ページから続く)

野里 製作に苦手意識のあるお友達が出て、じっくりと一緒に折り紙に取り組んだことがあります。その後、その子はものづくりコーナーにも続けて通うようになり、折り紙の本を見ながら自分で折れるようになりました。作ったものをプレゼントしてくれることもあります。苦手なことを乗り越えて、自らやってみたい、という気持ちになつています。

坂本 先生方は子どもたちが自ら考えるところをすごく大切にしています。「どうする?」と問いかけ、子どもが決めてやってみる。もちろん失敗もするけれど、その後、どうするか子どもが考える。うまくいかなかったら、困っても、失敗してもいいんだ、と安心して挑戦する気持ち子どもたちの中に育っている気がします。

「コーナー保育」を活かし、どんな保育を展開していきたいですか?

野里 今年は5歳児の担任をしています。ものの仕組みや性質に興味を持つ子が多いので、探究心を育てる上でも実験的な要素を取り入れていきたいです。毎日のコーナー保育でもスペースや天気の関係でいつもと同じ活動ができないときもあります。それでも場所を変えたり、卓上でできる遊びに切り替えたり、工夫すればできる方法があります。子どもたちの声を大事に、相談しながら進めていきたいです。

佐藤 子どもたちはコーナー保育の中で様々な挑戦をしています。失敗したり、できなくて力を落としたりして葛藤することもあります。異年齢の中で励まし合い何回も挑戦しそして成功する。「わくわく」した気持ちをたくさん体験してほしいし、一緒に楽しみたいです。

坂本 一つの遊びに集中することはすごくいいことだと思う反面、いろいろなコーナーに行つて、いろいろ

な経験をしてもらいたいという思いもあります。ちょっと新しいことをやってみようとか、こっちも面白そうとか、子どもたちの関心を広げられるように、どう発信していくかが課題です。興味を持ってもらえるよう環境を工夫し時にはアピールもしながらやっていければコーナー保育の可能性はさらに広がっていくのではないかと思います。



つみきで作った街に自分の車を走らせて





世界に目を向け、心を寄せて

宮古ひかり こどもバザー



「いらっしゃいませ!」。店員になりきった子どもたちが、元気いっぱいと呼びかけます。認定こども園宮古ひかり（森分和基園長）では11月7日、「子どもバザー」が開かれました。テーブルに並ぶ品物は、子どもたちが心を込めて作ったクリスマスリースやアクセサリー。これらをおうちの人を買っていただき、その売り上げをユニセフ（国連児童基金）などに贈ります。困っている世界中のお友達を助けるために自分たちにできることは？クラスで話し合い、品物づくりやお店の看板準備などに取り組んできました。活動を通して、一人ひとりの心にまかれた愛の種が芽吹き、大きく育つことを願っています。



こどもバザー

「こどもバザー」は、世界中で困っている友達の力になろうというねらいを持って、20年以上前から大切にされてきた活動です。初めは、うちでお手伝いをしていただいたお小遣いを献金袋に貯め、寄付していましたが、もっと子どもたちが自発的に関わる取り組みにしたいと工夫を重ねました。大人が主導するのではなく、日常的な遊びの中で、子どもたち自らがお店屋さんごっこや作品づくりを楽しみ、世界の友達に心を寄せるバザーへつなげていきたいと考えています。

子どもたちが協力して作った品物は22種類約450点。カラフルな羊毛を丸めて飾りにしたヘアピン、散歩の途中で集めた松ぼっくりやどんぐりをあしらった写真立て、アサガオのつるにドライフラワーを飾ったリースなど、どれも個性と努力の成果がにじみます。年長のりんご組が作ったカレンダーは、グループで協力し12カ月分のイラストと暦の数字を描いた力作。大きな雪だるま、お庭いっぱいチューリップ、雨の中のお散歩など、季節を感じながら、たくさんさんの思い出を作ってきたことが伝わる素敵な作品になりました。



品物は50円から300円まで値段が決まっています。保護者から受け取ったお金を間違えないよう協力して数える姿やうちのの人に自分の作品を買ってもらいたくてアピール姿もあちらこちらで見られます。品物は10分ほどで完売。子どもたちは自信に満ちた表情で「バンザイ」「楽しかった！」と声を弾ませました。

訪れた保護者の一人は「おうちでもずっとお店屋さんごっこをしています。今日はさらに頑張っていました。作品のクオリティも高かったです」とにっこり。別の保護者は「一生懸命に作った作品を手に行けるのはうれしい。子どもにも良い思い出になったと思います」と話しました。





「ずっしり重いね」。貯金箱に入った売上金を手に倉本先生は子どもたちの頑張りを褒め「百円玉一つでもお薬が買えたり、元気になる注射ができた、お腹いっぱいのご飯を届けたりするのに役立ちます」と説明しました。そして「もし、悲しい気持ちで泣いている人や困っている人がいたら、何ができるかな？家族や周りの人のことも考えられる力を持てるとうれしいです」と語りかけました。

何ができるかな？

ウクライナやイスラエルのガザ地区などでは紛争によって多くの命が失われています。大きな災害や貧困に苦しむ地域もあります。子どもたちもニュースや大人の話から、こうした現実を見聞きすることがあるでしょう。園では、世の中に自分と全く同じ人がいないように、考え方も一人ひとり違うこと、それぞれの考えが違ってぶつかったら、心を込めて話し合うことの大切さを繰り返し子どもたちに伝えていきます。園での体験から、自分も周りの人も愛し、平和を追求する心が育ってほしいと願ってやみません。



伝えたい本の力 ～冬編～

クリスマス、お正月と年末年始は子どもたちにとってワクワクするイベントが目白押し。家族で過ごす時間も増えることでしょう。ふだん出かけられない場所に出かけたり、雪の中で遊んだり、おうちの中でゆっくりと本に親しむ時間もかけがえのないものです。善隣館書店のスタッフ3人に、お薦めの絵本を選んでいただきました。

本当に大切なものは目に見えない

善隣館書店 店長 佐々木章さん



こりすのクリスマス

2021年 BL出版
作・絵 豊福まきこ

北の国、サンタクロースの暮らす森にこりすが住んでいました。子どもたちにプレゼントを用意するサンタさんに、こりすは、自分がプレゼントをあげたい！と思い立ちます。でも、いったい何がいいのでしょうか？ おいしいもの？めずらしいもの？プレゼントが用意できないまま疲れて眠ってしまい、クリスマスの夜が明けます。

帰ってきたサンタさんは、すべてを見通したかのように、こりすに感謝し優しく語りかけます。「たくさん たくさん わしのことを かんがえて くれたんじゃろう？」「わしが せかいじゅうに とどけているのは “もの”ではないんじゃ」

本当に大切なものは目に見えません。誰かを想う気持ち、費やす時間… 贈り物の本当の意味、クリスマスの本当の意味を考えさせられる素敵な一冊です。（談）

善隣館書店教育振興募金のお願い

学校法人岩手キリスト教学園は、善隣館書店との事業連携による教育振興のため募金のお願いをしています。乳幼児期に出会う絵本は、心の成長のために欠かせない存在。同書店との協力により、子どもたちの豊かな情操の発達や保護者の子育て支援の働きを一層充実させたいと願っています。

郵便振替による募金のお振り込み

口座番号：02270-2-129076

加入者名：学校法人岩手キリスト教学園

※通信欄に「善隣館書店教育振興募金」とご記入ください。



(有)キリスト教センター善隣館書店

〒020-0025

岩手県盛岡市大沢川原3-2-37

奥羽キリスト教センター1階

TEL/FAX 019-654-1216

四季を感じて子育て ～一言のメモが宝物に

善隣館書店員 大森紀代美さん



ゆき

1998年 あすなろ書房
作・絵 ユリ・シュルヴィッツ
訳 さくまゆみ

雪が積もりゆく街の風景と雪を愛でる男の子の気持ちを描いた美しい絵本です。雪が降るのを期待している男の子と冷めた大人たちの対比も面白い。男の子のうきうきした気持ちを象徴するようにマザーグースの世界のいろいろな仲間たちも飛び出していきます。

子どもに絵本を買ったとき、その日の出来事を簡単に裏表紙の裏にメモしてきました。我が家の「ゆき」の絵本には「ケンちゃん髪を切る。ホンマ理髪店にて 生まれて初めて顔のうぶ毛をそる！」の文字。息子を床屋に預けている間に街の書店で見つけた絵本だったこと、ばっちり整えられた息子の眉毛が衝撃的だったことなどを懐かしく思い出します。一言のメモでも親と子、それぞれの宝物になりますよ。四季を感じながら子育てができるのは本当に幸せなこと。目の前のことを慈しみ、楽しんでほしいと思います。（談）



でてこい でてこい

1998年 福音館書店
作・絵 はやしあきこ(林明子)

繰り返し読んだ絵本 ～よみがえる楽しい時間

善隣館書店員 浜田陽子さん



「だれかがかくれているよ でてこい でてこい」と色紙に呼び掛けると、「げこ、げこ、げこ」かえるが出てきた！「ぴょん、ぴょん」うさぎが出てきた！いろいろな動物たちが次から次へと色紙から飛び出していきます。「何が出てくるのかな？」とわくわくしながらページをめくることができます。

私の息子もこの本が大好きで、何度も繰り返して読みました。図書館もよく利用していますが、本当に好きな絵本は買って手元に置いておくことをお勧めします。子どもが大きくなって、手にとらなくなったとしても、その絵本を目にするたびに楽しかった時間が幸せな思い出とともによみがえります。林明子さんは繊細で温かな絵が特徴。「こんとあき」「おふろだいすき」「はじめてのおつかい」など、お父さん、お母さんも子どものころに親しんだ素敵な絵本を多数手がけています。「でてこい でてこい」は鮮やかな色と形、リズムカルな言葉で0歳児から楽しめます。（談）



きらめきつうしん

各園から子どもたちや教職員の様子をお伝えします

認定こども園青山幼稚園

保育教諭 石舘 玲子(いしだて・れいこ)

絵本から遊びへ～おいもほりごっこ

2歳児クラスでは、子ども達が大好きな絵本「おいもさんがね」からおいも掘り遊びを楽しんでいます。皆でローラーや筆を持って、模造紙や封筒に自由に色を塗り畑やサツマイモを製作しました。乾いたところでお芋に新聞紙を詰めて完成！皆で畑を囲み「よいしょ よいしょ」と掛け声とともに芋のツルを引っ張ると、土の中からおいもが顔を出し、大喜びで一気に引き抜く子ども達。別の場所からは、モグラやネズミがでてきたり・・・「つぎはなにがでてくるかな？」と想像したり、期待しながら繰り返しお芋掘りを楽しんでいます。

先日、園内でも焼き芋会が行われました。皆でアルミホイルにお芋を包み焼けるのを心待ちにして、今年も年長組の収穫したサツマイモを美味しくいただきました。



認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

副園長 菊池 千咲(きくち・ちさ)

ハッピーハロウィーン！

10月23日からのハロウィンウィーク。かぼちゃのランタン作りを行い、綿を取り除き、表面に顔を描いたり、パーツを切ったりしながら完成させました。夕方から点灯すると自分たちが作ったことに満足そうでした。

26日はハロウィン散歩！それぞれの衣装を身に付け、0歳～2歳児は町のお散歩コースを歩き、3歳～5歳児はショッピングセンターや市役所で、保護者や地域の方々を前に楽しみながら歌や踊りを披露してきました。ハロウィンの雰囲気、楽しさを体験できたウィークでした。



認定こども園ひかりの子

保育教諭 佐藤 優(さとう・ゆう)

絵本を大切に…

ひかりの子では、豊かな感性や優しい心、想像力を育む為に長年絵本を大切にして保育をしています。季節に応じた絵本、物語、シリーズもの、図鑑等、充実した蔵書があり、保育者は、子どもたちの年齢や興味に応じて選書し、読み聞かせを行っています。また、子どもたちがゆったりとした雰囲気の中で自由に絵本を選び、読む時間も大切にしています。新しい絵本に興味に向かう子どももいれば、気に入った絵本を何度も繰り返し読むことでいつも同じストーリーと出あえる安心感を得る子どももいます。子どもたちの豊かな感性や心を育むために、家族とのスキンシップをはかりながらの読み聞かせがとても重要と考えており、毎週火曜日は絵本の貸し出しの日として子どもたちが自分で絵本を選び家庭に持ち帰っています。



アガペ保育園

保育士 田村 愛海(たむら・あみ)

ひかりの子フェスタ

11月3日、コロナウイルスによる規制も緩和され、4年ぶりに通常に近い状態で開催することができた「ひかりの子フェスタ」。今年度はひかりの子に加えて初めて、アガペ保育園を会場とし、子どもたちの作品を展示しました。手指をいっぱい動かしてでき上がった0.1.2歳児の作品、様々な種類の積木を積み上げてダイナミックに表現したノアの箱舟。それぞれの年齢、発達に合わせた個性あふれる作品となりました。

保護者の方を自分の作品の場所まで案内したり、作品を見ながら話をしたりする子どもたちの自信に満ちあふれた表情が印象的です。作品を通して子どもたちの成長や製作の様子を保護者の方と分かち合うことができたことを嬉しく思います。また、子育て支援カフェによるコーヒーや食育係によるラーメンの販売、父母の会のフェスタ係・お父さん協力隊の方々の企画などもあり、子どもたちの笑顔あふれるひかりの子フェスタとなりました。





認定こども園のぞみこども園

保育教諭 上山 佳奈 (かみやま・かな)

秋の実りに感謝して

山が色づき、落ち葉が黄色やオレンジへと姿を変える頃、のぞみこども園では今年も焼き芋会が行われました。五月に自分たちで植えたさつまいもを収穫し、園で食べられることもあって、毎年子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。

芋ほりからやる気十分の子どもたち。さつまいもを見つけたときに大喜びし、お友だちと協力して大きなさつまいもを掘りました。芋を洗っているときから「いつたべる?」「今日たべるの?」と気持ちが高まります。焼き芋会当日は、朝から園庭が煙のいい匂い。お部屋でアルミホイルに包む作業を行い、焼いている間は“おおきなおいも”のペープサートを見て待ちました。待ちに待ったお芋の味は格別。秋の実りに感謝して、お友だちと一緒にお腹いっぱいになるまで食べ、秋を味わった子どもたちでした。



のぞみ学童保育クラブ

放課後児童支援員 早野 奈美 (はやの・なみ)

みんなと一緒に

10月23日、学校行事の代休日を利用して、のぞみこども園の園バスでお出かけをしました。今回の目的地は、市内の公園。平日ということもあり、公園は貸し切り状態。広々とした場所でボールあそびや砂あそびを目一杯楽しみました。また、鬼ごっこでは木の茂みを見つけて、見つからないように上手に身を潜めている隠れ名人たち。

ローラー式の滑り台では、前日の雨の影響により、服が濡れてしまうハプニングも。それも“面白い”に変換して、楽しそうに何度も滑っていた子どもたち。1時間弱の滞在時間でしたが、秋晴れの中、のびのびと過ごすことが出来ました。

間もなく迎えるクリスマス、そして冬休み。次のお出かけは、盛岡中央消防署までを予定しています。学童の仲間たちとの生活やあそびを通して、様々な経験を重ねていってほしいと思います。



認定こども園宮古ひかり

教頭 藤田 雅子（ふじた・まさこ）

一緒におがっぺ

雨上がりの水たまりも土も、子どもたちには魅力的。1歳児も水たまりの前にしゃがんで小枝や石をポチャッと入れ、そのうちに手も足も入れてジャバジャバと楽しめます。シャベルやバケツ等の道具を使って泥集め。保育者が泥をまとめて「ころころ」とすると同じように「ころころころ」。手つきも、いつの間にか様になってきています。自然と友達が集まってきてお団子づくりが始まりました。お皿に盛りつけたり、スプーンでお友達に差し出したり、「ほうちょ（包丁が必要）」「なにしてるの」「いれて」「いいよ」と言葉でのやり取りも見られます。時には、無言で必死な表情で一つの玩具を引っ張り合い、自分の物だと主張する場面も。

そこに空からヘリコプターの音がして、空を見上げ手を振り、また何事もなかったように笑顔で遊び始めます。服も靴も泥だらけになりますが、泥だらけの手を広げてにこにこしながら見せてくれます。今だからこそできる体験を沢山させてあげたいと思いますし、見てまねて、探索しながら友だちと成長していることを日々感じます。



家庭的保育事業ぶどうのき

園長 佐々木 妙子（ささき・たえこ）

ちびっこゴジラあらわる？

段ボールと牛乳パック等を使って家やテーブル、ピアノ、椅子等を作って置いてみました。ピアノを弾いて礼拝したり、お料理を作って食べたりと短い時間ですが、この場所を使っただけで遊びが見られます。

ある日、お料理、お風呂、ポポちゃんの寝かしつけをしている子どもたちの姿があまりにも可愛いのでカメラで撮ろうとしたら「見ないで」と言わんばかりに窓を閉められてしまいました。写真を撮るのを諦めてしばらくすると家をひっくり返して大笑いしている姿が・・・。1歳児のちびっこゴジラたちが家を破壊！いったいこの家で何が起きたのでしょうか？友だちと一緒に自分たちの世界を作り始め楽しさを共有している子どもたちのままと遊びは見ている私たちも楽しいです。0歳児は這い這いができるようになり家の中を速いスピードで移動するようになりました。低い棚を増やし、0歳児が好きな玩具を自分で選べるように1つ1つ並べて置いています。手にとって舐めたり、かじったり、ひっくり返したりと興味ある物や事に猪突猛進の毎日です。



「みてみて、とれたよ！」

青山幼稚園の収穫感謝礼拝に参加する2歳児のお兄さんお姉さんを羨ましそうに見ていた子ども達。「みんなもお芋掘りに行こう」と、画用紙や新聞紙でできた畑に誘いました。畑に到着すると、興味津々で周りに立ち「なにこれ」とわくわくしている様子。お手本の先生がさつまいもを引っ張ると

「わー！」と喜び、子ども達も「おおきいね」「ほれた」など言いながら楽しそうに芋掘りをしていました。手作りの畑にはさつまいもだけでなく、ミミズも出てきたりして、自然に近い体験を味わえて嬉しそうでした。

給食には青山幼稚園で作っていただいた焼き芋が提供されました。いつもさつまいものメニューを残していた子も、大きな口をあけて食べると甘くてビックリ！目を大きくして「おいしい」と喜んでいました。全部食べ終わると「これ、食べたい〜」とおかわりを欲する姿も見られ、とても満足しているようでした。

上堂ホサナ保育園

保育士 篠木 あずさ(しのぎ・あずさ)



フリースクールこといろ

ひかりの子 子育て支援課フリースクール係
高野 祐子(たかの・ゆうこ)

こといろってどんなところ？



こといろ始まって以来、念願の「お泊まり会」が9月初めに日詰教会で行われた。興奮冷めやらぬまま眠れぬ夜を過ごしたが、貴重な経験となった。夏の暑さが残る中、収穫を迎えた野菜たちはこといろの食卓を賑やかにしてくれた。10月になると、ひかりの子フェスタでの作品展の準備が話題になっていた。時を同じくして、遠足やりんごもぎ、サツマイモ掘り等の企画もあった。他に、中3生を対象に進路に向けた活動もあった。その『面接』での一コマ。スタッフ扮する面接官が「こといろはどのような場所ですか？」と質問。それに応えた一人は「全部が学び」と即答。もう一人はしばらく考えて「チャレンジできる所」と話した。

たまたま、今年度の作品展で『こといろ紹介』を手がけていた中3女子はこれをきっかけに、メンバーからも聞いてみんなの声を紹介したいと言った。すると、いろいろな経験ができる・すてきな所・みんなで力をあわせてなんかする・何があっても大丈夫・喜怒哀楽・勉強に集中できる・笑いもだじゃれもある・スタッフがおもしろいとそれぞれが書いた。

この場所を知って、自分の意志で来ている子も、多くを家庭や他の場所で過ごしている子も、巣立っていった仲間も、自分がもつ『色』で輝いてほしいと願う。祈りつつ。

きたくり保育園

主任保育士 高橋 絵里子(たかはし・えりこ)

あま〜い♡スイートポテト

4月から新きたくり保育園が始まり、初めての「やきいも会」の日。今年度は園庭・園周りの整備が整わなかったため、さつま芋を焼くことはできませんでしたが、3・4・5歳クラスでは「スイートポテトづくり」を楽しみました。自分達でお芋をつぶして形を作り、鉄板にならべ、大きさ・形の違う自分だけのスイートポテトが出来上がりました。自分で作ったスイートポテトを食べる喜び！秋の恵に感謝しながら、園内はスイートポテトの焼きあがったあま〜い香りと共に、子ども達の笑顔でいっぱい焼き芋会になりました。



学園の教育・保育施設は2023年12月現在、認定こども園5施設、小規模保育所2施設、家庭的保育事業所1施設、保育所1施設です。他に学童保育クラブ1施設、フリースクール1施設を運営しています。キリスト教保育を柱に各園が連携し、地域の子育て世帯のよりどころとしての働きを目指しています。

●認定こども園青山幼稚園

(保育機能施設すみれ)

盛岡市青山3-6-27

電話019-647-0223

●認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

遠野市中央通り3-10

電話0198-62-2150

●認定こども園ひかりの子

(フリースクールこいろ)

紫波町日詰字下丸森130

電話019-672-2542

●認定こども園のぞみこども園

(のぞみ学童保育クラブ)

盛岡市館向町21-7

電話019-624-5651

●認定こども園宮古ひかり

宮古市西町3-3-26

電話0193-62-6845

●上堂ホサナ保育園

盛岡市上堂1-4-10

電話019-656-0235

●アガベ保育園

紫波町日詰字郡山駅184-1

電話019-613-2635

●ぶどうのき

宮古市山口3丁目2-23

電話0193-65-6283

●きたくり保育園

盛岡市厨川1-7-1

電話019-641-4330

のぞみ、遠野聖光 利用定員変更 第135回理事会 第120回評議員会

学校法人岩手キリスト教学園第135回理事会が9月28日、盛岡市の館坂橋教会を主会場に、遠野・日詰・宮古の4教会をオンラインで結んで開かれました。のぞみこども園・遠野聖光こども園の利用定員変更、理事・評議員任期に関わる寄付行為附則一部変更など4議案を審議し可決しました。

のぞみこども園は、保育ニーズに合わせ2023年10月から、3歳以上の1号・2号認定こどもの利用定員を減らし、3号認定こどもの利用定員を増やしました。0～5歳児全体の利用定員144人に変更はありませんが、今後さらに見直しを進めます。遠野聖光こども園は2024年4月から3歳以上児の利用定員を66人から52人に減らします。3歳未満児の利用定員は33人のまま変わりません。少子化に対応したもので、保育の質の向上と合わせ、子どもに関する新たな支援事業の可能性を探っていきます。

学園の理事・評議員は改正私立学校法が2025年4月に施行されることに伴い、構成を大幅に変更する必要があります。このため、現在の理事・評議員の任期を延長し、改正法施行と同時に新メンバーにバトンタッチできるよう準備を進めていきます。第120回評議員会も同日、開かれ、同じ4議案が可決されました。

中堅管理職者が情報交換会 保育の課題、解決のヒントは

副園長、教頭ら学園9施設の中堅管理職者ら18人が参加し2023年度第2回学園情報交換会が11月10日、認定こども園めぐみ遠野聖光こども園で開かれました。2年前から始まり今回が6回目。三つのグループに分かれ、保育の課題などを自由に話し合いました。

コロナ禍後の保育対応や連携園との協力、地域への発信、教職員の働き方など話題は多岐にわたり、ざっくばらんに意見を交わしました。午前中、遠野聖光こども園の保育の様子を見学する参加者もいて、学びの多い一日となりました。来年度以降も継続し、管理職としてのスキルアップや施設の枠を超えた協力体制の拡充につなげていきます。

表紙の写真：認定こども園ひかりの子の園庭で子どもたちが「丸太のぼり」に挑戦。「頑張れ、頑張れ」と声援がとび交います。初めて上までのぼりきったお友達に、みんなで大きな拍手。のぼった子も、周りの子も満面の笑みです。

その時、ある男の子が「あれ、〇〇ちゃんも拍手してるよ!」と気づきました。いつもはあまり感情を表に出さない、お友達が、みんなの喜びにつられて一緒に拍手をしていたのです。お互いの良さに気づき、褒め合うことができる子どもたち。とても素敵です。

編集後記

岩手で迎える35回目のクリスマス。園舎に響く、子ども達のクリスマスキャロルに心癒やされ、緊迫した世界情勢に、主の平和（シャローム）が早く訪れることを祈る日々です。（敬）

急な寒さに驚きダウンコートを引っ張り出して着ていたところ、ベイマックスのようだと子ども達に笑われました。おしゃれより暖をとる方が優先される冬です。（小）

この秋、牧師で参議院議員でもある先生が、フリースクールや学童保育の状況を視察するため、学園を訪れました。個性を尊重する多様な学びの場の必要性、一人ひとりの学ぶ権利の保障など、教育制度や子育て支援のあり方も含め幅広く意見を交わすことができました。子どもを育む環境の向上のためには、現場から情報を発信し、改善のための一歩を踏み出すことが大切だと感じました。（恵）

2023年度の園児・職員数（12月現在）

	園名	3歳未満	3歳以上	合計	教職員
認定こども園	青山	16	57	73	22
	遠野	34	47	81	25
	ひかりの子	49	123	172	41
	のぞみ	53	84	137	45
	宮古ひかり	39	90	129	37
小規模	ホサナ	13	0	13	10
保育所	アガベ	19	0	19	11
家庭的保育	ぶどうのき	5	0	5	4
保育所	きたくり	36	39	75	27
合計		264	440	704	222

※のぞみ学童・在籍者35人、フリースクールこいろ・在籍者10人

※青山・のぞみ、遠野・宮古ひかり、ひかりの子・アガベは園長兼任

きたくり・のぞみ学童 職員1人兼任（教職員実人数 計218人）

※法人本部職員は青山に2人、のぞみに2人（善隣館書店出向1人を含む）所属

※満3歳児は3歳未満に数えています

きらめき第10号 発行日／2023年12月10日

発行人／村上義治

編集／学校法人岩手キリスト教学園

法人本部：岩手県盛岡市上堂一丁目4番10号

TEL019-656-0237 FAX019-656-8672

郵便振替：02270-2-129076

名義：学校法人岩手キリスト教学園